

緑の休暇村エリア リニューアル事業について

令和 8 年 3 月 2 3 日
緑区役所地域振興課

事業の概要

➤ 目的

本事業は、青根地域が中山間地域振興のモデル地区として選定されたこと及び老朽化が進んだ青根緑の休暇村いやしの湯の中規模改修工事等をきっかけに、緑の休暇村センターと津久井合唱館を中心に再整備を行うことで、青根の目指す姿である「関係人口を創出するため、目的地となる青根・立ち寄りたくなる青根の実現」への貢献を目指すものです。

➤ 経過

令和4年度 中山間地域振興モデル地区（青根）の目指す姿を策定
令和7年度 リニューアル作戦会議（青根地域との対話）を実施

➤ 今後のスケジュール（想定）



※今後の検討状況等により
スケジュールは変更と
なる場合があります。

3-1 リニューアルの検討対象施設（現状）

緑の休暇村センター【再整備対象】



施設の外観（左）・内観（右）

開設年度

昭和55年

延床面積 640.75㎡

年間利用者数

1,680 人（令和6年度実績）

設置目的

青根地域の豊かな自然環境の中で、市民の健全な休養と研修の場を提供し、もって市民福祉の向上と地域社会の発展に寄与する。

▶ **リニューアルの方向性：宿泊施設として建替え**

3-2 リニューアルの検討対象施設（現状）

津久井合唱館【再整備対象】



施設の外観（左）・内観（右）

開設年度	平成6年	延床面積	105.24㎡
年間利用者数	627人（令和6年度実績）		
設置目的	市民が行う合唱、楽器演奏等の音楽活動及び交流活動の場を提供することにより、合唱の里づくりの推進及び音楽文化の振興並びに市民の総合交流の促進に寄与する。		

▶ リニューアルの方向性：有効な用途がなければ撤去

【参考】 3-3 リニューアルの検討対象外施設（現状）

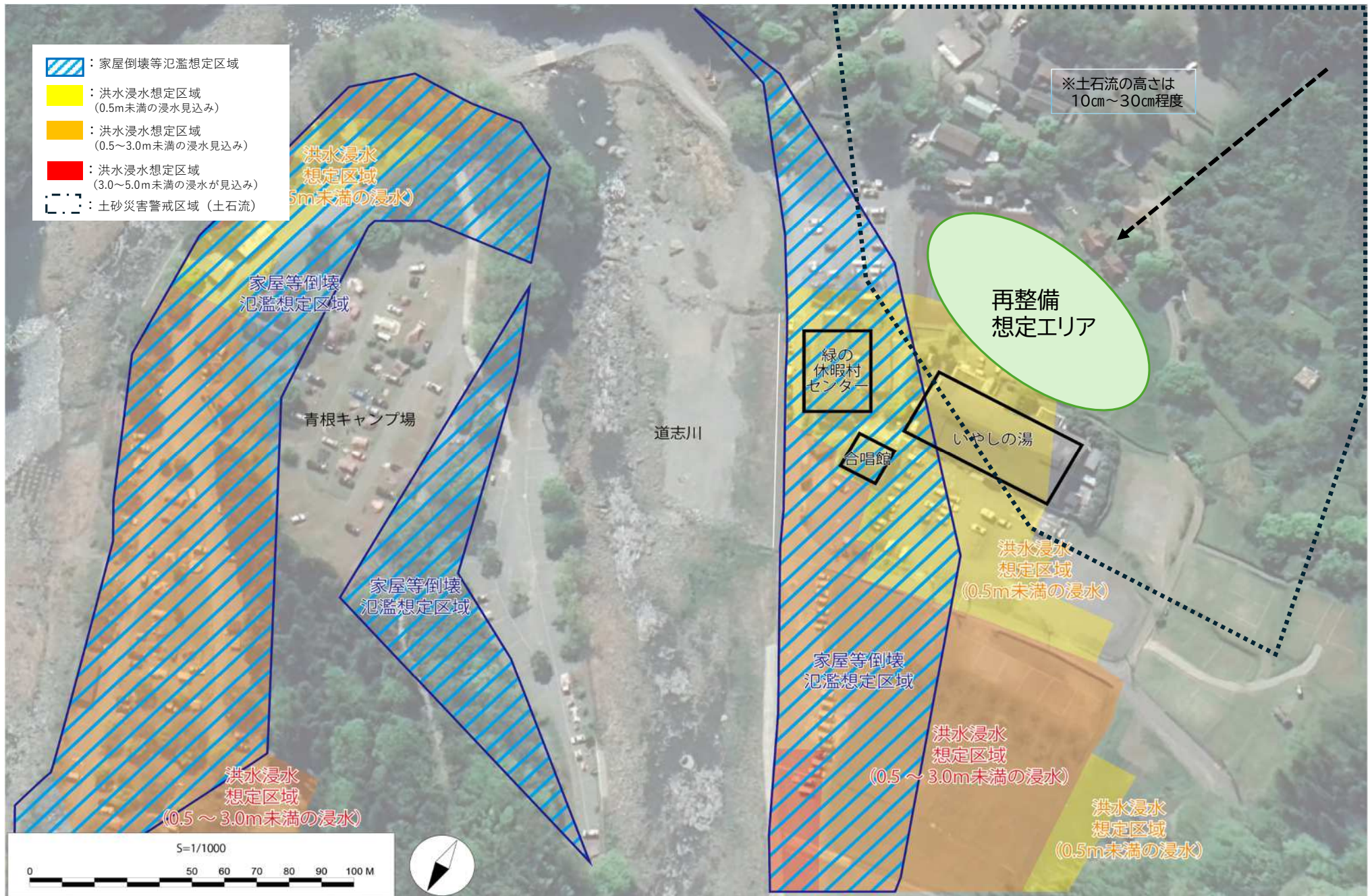
青根緑の休暇村いやしの湯 【再整備対象外】 ※温泉として維持



施設の外観（左）・内観（右）

開設年度	平成17年（現在、改修工事中。令和8年9月リニューアル予定）
年間利用者数	83,016人（令和6年度実績）※食堂利用者含む
設置目的	温泉資源の活用による市民の福祉の向上及び健康の増進を図り、市民のふれあいと交流を促進し、もって地域の活性化に寄与する。
備考	温泉の源泉権については地域組織（現在の指定管理者）が保有している。

4 リニューアルの検討対象施設の災害ハザード状況



本日の対話内容

- リニューアルの検討対象施設の状況等を踏まえ、主に次の項目について、対話をお願いします。

項目	内容
①施設の導入機能について	来訪者が青根に滞在できる場所を用意するため、宿泊機能の導入を想定しておりますが、加えて本事業に適した施設に備える機能（簡易キッチン、飲食、多目的ルーム（貸室）など）について、ご意見がありましたら、お聞かせください。
②民間事業者の参入可能性について	現在非公募で指定管理を受けている団体が高齢化しており、民間とのJVまたは民間主導による運営に向けた可能性（市場性）調査の実施を検討しております。実施にあたり意見や懸念事項がありましたら、お聞かせください。
③災害への対応について	事業地の一部が土砂災害警戒区域や浸水想定区域に該当していることから、浸水想定区域外の土砂の想定流量が少ないエリアへの建替えを想定しておりますが、指定区域状況を踏まえた対応策等についてアイデアがありましたら、お聞かせください。
④その他	事業化に向けた課題や条件、行政に期待する事項がありましたら、お聞かせください。

(補足) リニューアル施設の想定について

再整備施設の導入機能

※隣接地に民間のキャンプ場があるため、同類機能は検討しておりません。

【想定事例①】

事例:LUXE TECH VILLA ASHITOKU(奄美大島 運営:民間事業者)

チェックイン手続きと鍵の受け渡しが無人でできる「セルフチェックインシステム」を採用。キッチンコンロ付きの部屋もあり運営者が食事を提供しなくても良いため、人手を抑えた施設運営が可能(写真出典:Yahoo!トラベル)



宿泊



簡易キッチン



多目的ルーム(貸室)



【想定事例②】

事例: Mt.TAKAO BASE CAMP(八王子市 運営:合同会社ViGOR)

宿泊、カフェ&バー、リモートワーク、シャワーロッカー、アウトドア用品のレンタルなどの機能を持つ、高尾山口の活動拠点(写真出典: Mt.TAKAO BASE CAMPホームページ)



宿泊



飲食



多目的ルーム(貸室)



再整備施設の場所

青根緑の休暇村いやしの湯の南側敷地周辺

(補足) リニューアル施設の想定について②

再整備施設の最大規模

延床面積 約745㎡を想定 (緑の休暇村センター+津久井合唱館)

ターゲット層

【繁忙期(春休み、GW、夏休み期間)はファミリー層】

○国道413号(道志みち沿い)には、いくつものキャンプ場があり、特にGWや夏休み期間に大きくのファミリー層の利用があります。

【閑散期(冬季)は高齢者層】

○現状、夏季と比較して冬季は利用者数が落ち込みます。利用者が少ないため、ゆったりと温泉に浸かりたい地域や高齢者の方の利用が増えます。

※既存施設の利用者は概ね4月～10月までで7割、10月～3月までで3割程度です。

宿泊料金の考え方

現在の緑の休暇村センター条例で定める宿泊料金と同程度を想定

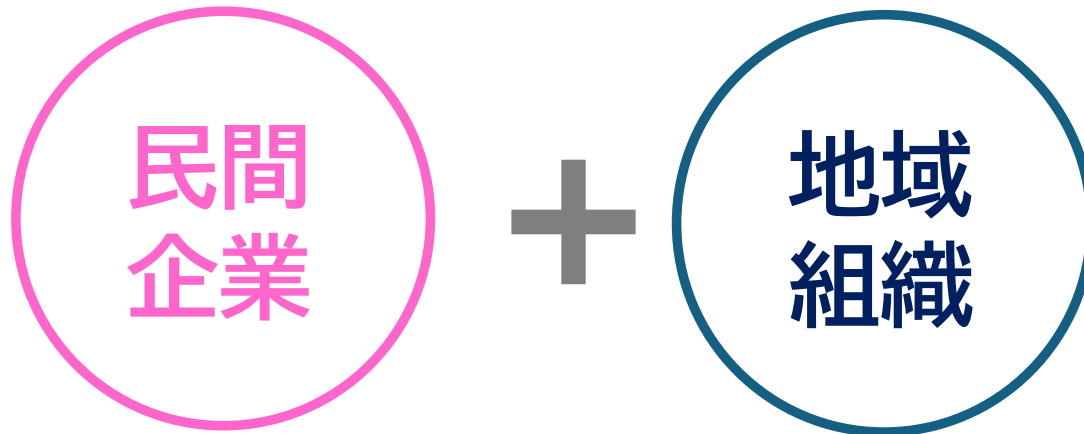
○1人1泊(素泊まりの場合)につき、

- ・大人 6千円
- ・小学生 4千円
- ・小学生未満 2千円

(補足) 民間事業者の参入可能性について

現時点で想定している運営形態①

民間企業＋地元組織(一般社団法人青根振興協議会)によるJV
 ※市の指定管理施設では、藤野やまなみ温泉で同様の事例有



(一社)青根振興協議会

現時点で想定している運営形態②

民間企業主導による運営、地元組織の従業員を雇用し、地域もイベント等に関りを持つ。



(一社)青根振興協議会